Niigata College of Nursing
Portico
ポルティコの広場
vol.16
2009.12
新潟県立看護大学
ニュース

# 上越災害時医療訓練

臨床看護学領域　教授　深澤佳代子

県内外の施設や機関が参加し、平成21年度上越災害時医療訓練が6月27日に開催されました。その概要を報告したいと思います。新潟県ではここ数年来、三条の水害、中越地震、中越沖地震など立て続けに大きな自然災害に見舞われています。上越市内が被災現場になるということはありませんでしたが、災害時の医療救護活動を円滑に実施するという目的で、昨年4月に上越保健所を中心に上越市内医療基幹病院、上越医師会、上越市、上越消防本部、新潟県、本学を含む14機関が参加する上越災害医療コーディネートチームが結成されました。コーディネートチームの役割の1つとして平常時の災害に備えた研修や訓練の実施が定められています。6月に行われた上越災害時医療訓練はこのコーディネートチームの企画によるものです。

平成20年度も上越沖マグニチュード8直下型地震発生という設定で大がかりな訓練を計画して当日を迎えたのですが、当日、開始直後に岩手・宮城内陸地震が発生し急遽中止となったという経緯がありました。今年は、新型インフルエンザ発症が心配でしたが、1月から6回の実行委員会を開催し、災害超急性期医療ガイドラインの策定、タイムスケジュールや参加施設の動きなど詳細な検討を重ねながら、訓練当日を迎えました。

本学では、成人看護学の教員が引率して約40名の学生が地震で外傷を負った重症患者役を演じ、4月に本学に就任された渡邉学長をはじめとして、事務局職員など、多くの教職員が参加しました。また、体育館をLSCU（Local Staging Care Unit）として提供しましたが、県内外より10チームを超えるDMAT(Disaster Medical Assistance Team)が集結して 地域内の医療機関から搬送された広域搬送対象者の一時収容、トリアージ、追加応急処置、ヘリコプターを使用した地域外搬送などが本番さながらに行われました。また、大学近辺の住民の方々も見学に来校され、今更ながらに災害訓練への関心の高さを実感しました。訓練後の反省会では、医療機関でない施設にLSCUを設置したことへの意見なども出されましたが、災害時の避難所以外に災害時に本学に求められる役割を明確にしていく上で良い機会になったと思います。

今年度より施行された看護基礎教育の改正カリキュラムには災害医療・看護が含まれました。朝早くからムラージュ（患者用の化粧）をして、暑い中、何時間も患者役に徹した学生たちは臨場感あふれる訓練の現場にどっぷりと浸かり、災害現場の医療がどのようなものか身を持って学ぶという機会に恵まれました。中には、患者役および看護師役として地域外広域搬送用のヘリコプターへの搭乗や、救急車による搬送を体験した学生もあり、訓練後のアンケートでは全員がこの訓練を有意義なものとしてとらえていることが伺えました。

今回、2年越しでこのような大々的な訓練が行われた訳ですが、今回の訓練での経験を踏まえ、今後、災害時の本学の担う役割として、避難所と応急処置を含めた医療提供の場のバランスをどのように維持させていくのか、そのための具体的な対策など、さらなる検討が必要であると思いました。

もくじ

1　上越災害時医療訓練
2　継燈式　桜蓮祭

3　オープンキャンパス
新教職員の横顔
ゼミナール紹介
4　実　習

5　卒業研究
6　サークル紹介

卒業生は今

7　研究報告
学長と新三役からのメッセージ
8　看護大いきいきサロン

## 継燈式

7月2日、はじめての病院実習である基礎看護学実習を目前に控えた2年生が、先輩からの看護の燈を受け継ぎました。実習病院の方々からの温かい励ましを受け、これからの病院実習への決意を新たにし、看護への道をまた一歩前進しました。

## 桜蓮祭

第8回桜蓮祭が11月7日に開催されました。「地域を愛し、地域の人を愛す」という願いを込め、今年度は、「愛地愛人」をテーマに趣向を凝らした企画が開催され、たくさんの方々が御来校されていました。新型インフルエンザの影響も懸念されましたが、無事に終了しました。

ダンスサークルの発表の様子

エアロビサークルの発表の様子

受付の様子

## オープンキャンパス

8月5日、25日にオープンキャンパスが行われ、参加者は両日で293名にのぼりました。看護に関する体験や学生相談には在学生も応対しました。参加者からは、「いろいろな看護の体験ができてとても楽しかった」、「施設がきれいで充実している」などの意見がありました。

教員による個別相談

小児看護学 体験演習の様子

地域看護学 体験演習の様子

# 新教職員の横顔

生物・医学領域　教授
**境原　三津夫**（さかいはら　みつお）

はじめまして。9月より生物・医学領域の教員として勤務しています。日本海側に住むのは鳥取県、石川県についで3回目となります。出身は群馬県ですが、今まで最も長く住んだのは北海道です。冬に雪がなかったのは群馬県だけですので、どちらかというと冬に雪があった方がいいと思っています。上越の雪景色を今から楽しみにしています。

さて、私は産婦人科を専門とする医師ですが、研究テーマが医事法ということもあり、自分では産婦人科を基盤とした医事法学者であると思っています。医事法学は医療に関係する法的問題を扱う学問で、医学と法学にまたがる学際的領域の学問ということになります。最近は医療事故が訴訟に発展することが多くなりました。これは医療職と患者さんの信頼関係が薄れていることを意味しています。隠す・ごまかす・逃げるという不適切な行動をとることにより、どんなに強固な信頼関係であっても簡単に崩れてしまいます。臨床の現場では時々刻々と状況が変化します。医療従事者はそれぞれの状況に応じ適切な行動をとらなければなりません。どのような状況にあっても、自らがなすべきことを論理的にしかも瞬時に考えて行動することが求められます。医師と看護師が考えていることが一致すると医療行為は円滑に進み、患者さんにとって最大の利益をもたらします。緊急時であれば患者さんの生命を左右することになります。医師と考え方を共有できるような医学知識とその応用力を身につけられるような医学教育を目指しています。どうぞよろしくお願いいたします。

地域生活看護学領域・老年看護学　助手
**須藤　陽子**（すどう　ようこ）

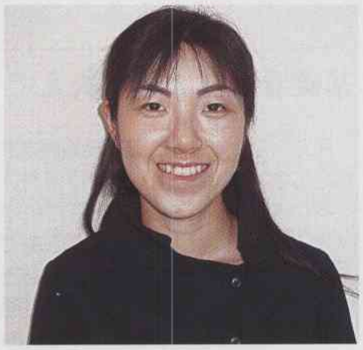
はじめまして。ご縁ありまして6月から老年看護学の教員として赴任してまいりました。

新潟県上越市は、大学時代にいた北海道の情景と似ており、初めて訪れた土地なのに懐かしさを感じております。また、海に面していない栃木県出身ということもあり、関川の下流に広大な日本海を臨めた時の感動は、計り知れないものがありました。親しみと新鮮さが共存する地で、教員生活をスタートできたことに嬉しく思います。同時に、新たな出会いに恵まれたことに感謝しております。

私は、今まで病棟看護師として、栃木・埼玉の病院で勤務しておりました。診療科も内科・外科問わず多岐にわたり、様々な経験を積ませていただきました。その中で感じたことは、「患者さんの全てを理解することは出来ないが、理解しようとする気持ちを持ちつづける根気が大切である」ということです。

特に高齢者の方に関しては、入院による環境の変化に伴い、不穏状態に陥ったり一見理解し難い言動も見られたりします。でも、現状から目を背けず、向かい合うことで言動一つ一つに意味があることに気付き、患者さんの思いの理解へと結びつくのです。関わりにより、患者さんからは不安な表情が消え、笑顔が少しずつ表出されていくことが、私自身の励みとなっていたように思います。

私は、教員や看護師としてもまだまだ未熟で、教員の方々や学生の皆さんから気付かされることが多々あります。これからも、ご指導をいただきながら、学生の皆さんと一緒になって看護を学んでいきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



# ゼミナール紹介

## 基礎ゼミナール1の紹介

渡辺弘之先生の基礎ゼミナール1では、男子3名、女子7名の学生10名で写真を撮り、その写真に言葉をつけることを行っています。

テーマは毎回違って、「夏っぽいもの」「私のオススメ」「新生活」など、まあ何でもありです。みんなで決めたテーマをもとにふだん何気ない日常風景の中の写真を撮り、その写真を発表し合います。同じテーマなのに10人全員が毎回違うものを撮ってくるので、写真を見ていて飽きることがありません。テーマはみんな一緒なのに誰一人かぶらないとこがおもしろいです。最初はこんなに写真に個性が出るとは思わなかったので、他の人の写真を見て新しい発見があったり、興味を持つきっかけになったりします。発表の時にはいつも笑いが絶えず、いつも和気あいあいとみんなの作品の感想を言い合い、とても楽しく自由なゼミです。みんなそれぞれ個性的な写真を撮ってくるので、どんな作品ができるのかいつも楽しみにしています。技術的なものを問われるわけではありませんが、回を重ねるごとにみな上手になっている気がします。

ゼミ仲間も個性があり、どんな小さな記事でもとても魅力的で感受性が豊かになりました。カメラを通して、今まで触れなかったことや新しいことに挑戦する機会が増えて、写真を撮る楽しさを教わりました。自分が今まで知らなかったこと、考えたこともなかったこと、見たこともなかったことを発見でき、自分の世界が広がっていくのを感じることができました。このゼミでの経験を生かし、何事にもチャレンジしていく精神を持ってこれからの大学生活を送っていきたいと思います。

# 実 習

## 地域看護学実習での学び

4年　本間 綾子

ただ漠然と保健師を目指しているわけではないのですが、看護職の中でも保健師というと業務内容やケア対象者が多岐に渡るため、実際に地域看護学実習に出るまではその活動がぼやけていたように思います。私は昨年度、本学に3年次編入しました。看護専門学校で学んでいるうちに、地域で暮らす方々に寄り添い、支援できる保健師を目指すようになっていました。病院では、患者中心に看護を考えて患者の背景として家族を捉えることが多いのですが、地域看護では、家族を一つの単位として看護します。その大切さが、実習では理解できたように思いますし、保健師の役割が明確になりました。

また、予防的視点で地域の健康問題を捉えて、健康な方にはますます健康になっていただくために、私たちのグループではある地域を対象に、生活習慣病予防の健康教育を実施しました。地域の実情を統計データで把握することから始まり、地域住民へのインタビューで生の声をお聞きしたりもしました。住民が知りたい情報をタイムリーに提供したいと思っていたので、住民のニーズの見極めはとても難しかったです。しかし、地域の実態に応じた資料やパンフレットを作成し工夫したところ、住民一人ひとりがご自分の問題として捉えてくださいました。何より、住民のみなさんが実習生の私たちを快く受け入れてくださったことはとても嬉しかったです。そして実習メンバー間の連携も良く、とても活気あふれた実習になりました。それと同時に、住民との交流を通し、本学の特徴である"地域に開かれ、且つ、受け入れられた大学"だということも実感できたように思います。

地域看護活動のキーワードは「住民と共に！」です。主役である住民と一緒に選択肢を考えていく姿勢、相手を尊重する態度が求められます。地域看護だけでなく、看護全般に言えることかもしれませんが、私たちは"看護"を通して人の人生の一部に関わらせていただける職種を目指しており、学ばせていただくことも沢山あると思います。今後も、専門職として看護大学で学んだことを活かしていきたいです。

（後列 左から1番目が本間さん）

## 基礎看護学実習を終えて

2年　佐々木　郁

私たち2学年は今回の基礎看護学実習で初めて実際に患者さんを受け持ち、援助を行いました。患者さんを受け持つ前に、病院というものがどのような組織で、どのような機能を果たしているのかということを知り、病院の中では様々な職種の人が一人の患者さんに対して関わっているということを学びました。実際に患者さんを受け持って私が学んだことは、入院しているという現在の状況だけを考えず、患者さんの過去も踏まえて考えていくことによって今後のケアの目標を立てることが可能になるということです。私は患者さんの今ある状況ばかりに目を向けてしまい、対象は患者である前に一人の人間であるということを忘れていました。そのことに気付き、視点を広げて患者さんと接していくと援助計画を立てていくときに個別性というものが見えてきました。患者さん一人ひとりが抱えている状況が違う中で個別性をもったケアは重要であると実感しました。また、患者さんについての情報を得るときのコミュニケーションでは会話などの言葉を交わすということだけではなく、患者さんの表情や仕草も重要な情報源になるということを学びました。そして、家族の方々からも沢山話を聞くことで患者さんの性格や日常生活の様子を知ることができました。今回の実習では初めて経験することばかりで戸惑いもたくさんありましたが毎日が新しい学びの連続でした。この実習で学んだことをこれからの学習、来年の領域別実習に活かしていきたいと思います。

## 基礎看護学実習を終えて

2年　明野 由多香

「もっと肩の力を抜きなさい。」実習の初日の朝、病棟に様子を見に来ていた先生に言われた一言でした。

病棟は祖父のお見舞いで何年前かに来た以来で、実際看護師さんの仕事を間近で見るのは初めてでした。患者さんが痛みで苦しむ様子、よく分からない機械がピーピーとなり響く病室…。私は初めてだらけの不安いっぱいななか、うまく動かなくては！と思い込み、とても緊張していました。

その不安や緊張は病院に通い始め、受け持ち患者さんを担当することになると自然と消えていきました。

患者さんや患者さんの家族と話し、向き合うことによって、患者さんについて毎日少しずつ知ることが出来ることが嬉しかったです。

しかし理解していく嬉しさが増えていくなかで、患者さんが今まで出来ていたことが入院によって出来なくなった苦しさを感じていたと知った時、私はこの方にきちんとした適切なケアが出来るのだろうかと壁にぶつかった時期が来ました。

そんなときは肩の力を抜いて、初めての実習なのだ！今自分が出来る範囲で精一杯取り組めばいいんだ！と考え、ケアにあたってみることにしました。

思い返せば私のケアは適切なものであったのか、もっとうまく出来たのではないか…不安は多少残りますが、最終日患者さんが「ありがとう」と微笑んでくれたことが本当にうれしくて、実習自体は気持ち良く終えることが出来たと思います。

看護について考えること、学ぶことの多い実習でした。今回の経験を是非今後に生かし、これから頑張っていきたいと思います。

## ふれあい実習で学んだこと　1年　柳沢 みずほ

10月13日から15日にかけて、ふれあい実習に行ってきました。いつも同じ教室で授業を受けている友達は、いろいろな地区に分かれていきました。その中でも、私は牧区に行きました。牧区は、看護大から20分ほどで着き、そこまで遠くは感じませんでしたが、看護大の周りの風景とは全く違い、あたりを見渡すと木々に囲まれており、お店や病院もありませんでした。

牧区での3日間で、特に印象に残っていることは、農作業体験と民泊です。1日目に大根抜きをしました。普段はほとんど農作業をしないので、どの大根を抜けばいいのか分からず戸惑いましたが、農家の方に大根選びから抜き方まで丁寧に 教えていただき、抜いた大根はおみやげにいただきました。そのあとに、あずきの収穫を手伝いました。私は、あずきが出てきたときは驚きました。そして、袋いっぱいになるまで夢中で収穫しました。農作業は、大変というイメージが強かったのですが、今回の農作業体験で、時間を忘れて収穫し、とても楽しい思い出になりました。

2日目の食体験が終わった後に、民泊先のお宅にお邪魔しました。民泊先の方々は私達に、とても親切に接してくれました。私は一人暮らしなので、こんなに大人数で家庭料理を食べたのは久しぶりでとても温かい気持ちになりました。民泊先のお父さんもお母さんもとてもよくしてくれて、実家に帰ったような気分になりました。

夕飯をごちそうになった後にお父さんに呼ばれて行ってみると、玄関をでてすぐのところにタヌキがいました。間近で見たのは初めてだったのでとても感動しました。

他にもこの2泊3日のふれあい実習の中で様々なことを経験しましたが、なにをするにおいても、一番に感じたことは牧区に住んでいる人たちの温かさでした。人口が少ない中でも、みんなで協力しながら生活している田舎ならではの温かさだと思います。今回の実習で学んだことを忘れずに、これからの大学生活に生かしていきたいと思います。

（左から2番目が柳沢さん）

# 卒業研究

## 卒業研究に取り組んで　4年　富澤 あさみ

卒業研究は、自分がどんなことを知りたいか、何を追求していきたいかといったテーマを見つけることから始まりました。私は、3年時の母性看護学実習を通して興味をもったことをテーマにし、母性ゼミで10名の学生、6名の先生方と共に研究を進めていきました。

卒業研究に取り組んでみて、私はゼミのメンバーの協力があったからこそやり遂げることが出来たと感じています。初めての研究で、常にこれでいいのか…という迷いがありましたが、先生方から指導を頂いたり、学生同士で意見を交わしたりと、何度もゼミで話し合っていく中で一つ一つのことを解決し、納得して進めていくことが出来ました。また、自分ひとりの解釈だけでなく、他の人の意見を取り入れることで、新しい気付きや違う視点から考えていくことができたと思っています。それと同時に、他の人の意見を取り入れるためには、自分の考えをわかりやすく伝えることがとても重要だということも学びました。研究を進めるにあたって、多くの文献やデータに目を通しましたが、その情報を自分がどう捉え、何を考えているのかといったことを相手にしっかりと伝えることができなければ、貴重な意見を活かすことはできないと実感しました。

今回、研究は一人でできるものではないと実感し、ご指導くださった先生方やゼミの学生にとても感謝しています。卒業研究での学びを、今後臨床で働いていく際にも活かしていきたいと思います。

母性看護学 専門ゼミナールの様子

# サークル紹介

## よさこい　よさこいサークル長　2年　箱田　亜沙美

私たちは現在主に1年生、2年生、3年生、4年生計53人で活動しています。よさこいサークルは地域密着型のサークルです。今年は男女共同参画フェスタ・上越まつり・観桜会・ミュージックフェスティバルなどさまざまなイベントに参加しました。呼んでいただいたところには積極的に踊りにいきます。また今年は初めて新潟総踊りにも参加し、県内外さまざまな方と踊りを楽しむことができました。そして、たくさんの団体の踊りを見て改めてよさこいの楽しさ感じることができました。時には、上越地区のよさこい団体の方から踊りを教わり一緒に踊りを楽しむこともあります。私たちは上越地区を中心に日々活動しています。

また自分たちでデザインから布選び、縫いつけなどすべて行い衣装作りをしています。学年ごとに衣装が違うのでそれぞれの個性が現れています。イベントのときは目には赤いシャドウを、鼻には白い線をいれ、メイクも本格的にしています!!

このサークルは未経験者ばかりなので先輩方から踊りを教えていただきながら練習しています。個性を生かしながら踊れるので難しいことはなく、誰でも楽しみながら踊ることができます。1曲が3分～5分と少しハードでありますが踊った後の爽快感はたまりません。近頃運動不足になりがちなあなた～!!!ぜひ初めてみませんか??

# 卒業生は今

## 患者様の笑顔やありがとうの声に救われて　2期生　佐藤　淑美

私は、新潟県立中央病院に就職し、脳神経外科・神経内科・皮膚科・形成外科の混合病棟に所属しています。東4病棟は雰囲気のよい病棟で先輩・後輩の仲がよく、とても働きやすい環境です。病棟や仕事に慣れ、与えられた仕事を行うことで精一杯であった1年目、少しずつ余裕ができ自分の理想となる看護が見え出し、看護の楽しさを感じ始めた2年目。そして3年目になり、現在私はリーダーシップを学んでいます。看護はチームで行っているため、自分の立場を踏まえ、病棟やチーム、スタッフの方が今どのような状況であり、どう考えており、いま自分はどのような行動をすればチームに貢献できるかという視点を持ちながら行動するようにしています。またリーダーシップを発揮するためには自分の意見を持ち、相手に伝えることができることも大切です。なかなか自分の意見を周りに伝えることは難しいですが、常に勉強をし、根拠を持って自分の意見が言えるように心がけています。素敵な先輩が多く、目標となる先輩も多くいますので、その先輩に少しでも近づけるようにがんばっています。

仕事は大変であり、精神的に疲れることもありますが、同期や先輩と食事に出掛けたり、年に数回大学の頃の友人と旅行やキャンプに行ったりし、気分転換をはかり、エネルギーの補充をしています。また、患者様の笑顔や「ありがとう」の声に救われています。

学生のみなさんは、中央病院に実習に来ると思います。初めてのことが多く緊張し、戸惑うこともあると思います。実習は将来看護師として働く上での基礎となりますので、患者様や御家族様はどうなりたいと思っているのか、またどのようになってもらいたいかという視点を大切に、たくさん勉強をし、たくさん学んで吸収して下さい。そして、聞きたいことがあれば遠慮なく看護師に声をかけて下さい。

（最前列 左から3番目が佐藤さん）

# 研究報告

## 認知症高齢者の意思決定の構造と意思決定支援ガイドモデルの作成に関する研究

基礎看護学領域　助教　　水澤　久恵

現在、文部科学省の科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）を受けて、標題の研究に取り組み2年目となります。私は、今までの看護師・保健師としての実践から、患者さんの生活の質を高めるうえで、医療において治療やケアに患者さん自身の意向を反映させること、患者さんの意思決定を尊重することが大変重要だと考えてきました。しかし、現実には様々な決定時には、当事者である患者さんが不在であるといった事実、患者さんの意思が尊重された医療が十分に行われていないとする報告も多くあります。特に認知症に罹患した高齢者は、認知症ゆえに様々な決定事項から本人の意思が排除され、家族への意向の確認をもってよしとされることも多く、本人の判断能力の如何に関わらず近親者の意向が医療や福祉に強く反映されています。海外における研究結果では、軽度から中度のアルツハイマー病の40%は治療の決定を行うのに十分な認知能力を有し、患者自身が自己のケアに関する決定に参加できるとしています。

そこで、看護や介護の現場においては、若干でも判断能力があると推定された場合には、残存する意思決定能力を見極め、出来るだけ能力を生かせる方略を考え、高齢者の権利を擁護していくことは、重要な課題であるといえます。そこで、このたびの科学研究費補助金を受けての研究では、認知症患者さんがどのくらいの能力を有するかといったことに関する看護師のアセスメントの視点、そして、意思決定を支える看護の実際を明らかにしていくということを目的にしております。

近い将来、2015年には認知症高齢者が280万人に達するとも予測されています。今後も人権尊重の理念を貫く新しい看護の実践が可能となるよう研究を継続し、人々が安らかに、自分らしく生き生きと暮らしていけることを目指して、その人の生命力と可能性を最大限引き出し支えることに、教育・研究者として何かしらの貢献ができればと考えております。

# 本学の新しい運営体制

## 学長と新三役からのメッセージ

新潟県立看護大学学長　渡　邉　　隆

学長室で11/10(火)に広報委員がお話を伺いました。インタビューは「4月に着任以来大学組織改革を進めるにあたり、教職員の皆様のご協力に感謝いたします。」という渡邉学長の言葉から始まりました。「新三役と共に、大学運営の基本として、自主性・公開性のある成熟した議論のできる大学を目指し運営いたします。」と大学運営への意気込みが伝わってきました。医療現場が目覚ましく変化している中で、「大学は、現場のニーズを知り、それを大学の教育と研究に反映させていくことを目指しています。学部ともに大学院も、臨床の場面に適応できる学部生・院生の育成をしていきます。」と語られていました。また、法人化、大学院の改革、さらに看護研究交流センターを中心に、大学の使命である社会貢献に力を入れていきたいと大学の将来像を語っていただきました。

◆◆◆

新潟県立看護大学副学長　中野　正春

中野先生の研究室で11/10(火)にお話を伺いました。「私の任務は、図書館長を兼務し、学長の補佐役として大学の運営を進めて参ります。」と語られていました。「学生は物事の本質を知るために、ぜひ本を読んでほしい。また、サークル活動を活発に行い、学生生活を楽しんでほしいと思います。」と学生に向けてメッセージがありました。中野先生は、大学時代サッカー部で、暗くなるまでグランドでボールを蹴っていたそうです。

◆◆◆

新潟県立看護大学看護学部長　小林　恵子

学生の皆さんが充実した学習ができるような環境を整えていくことが、看護学部長としての大きな役割であると認識しております。看護には人々の健康を守るという使命がありますが、そこには日常の暮らしがあり、また、その暮らしは健康と大きくかかわっています。学生の皆さんに期待することは、看護を提供するにあたっての専門的な知識・技術はもちろんですが、看護の対象となる多様な人々の価値観や暮らしが理解できるよう、本を読み、人々とふれあい、コミュニケーション能力や柔軟な思考を磨いてほしいと願っています。

私自身も実践現場に出かけ、人々から学び、教育、研究に反映させる努力をしています。

◆◆◆

新潟県立看護大学看護研究交流センター長
粟生田　友子

看護研究交流センターは、開学以来、活動の基盤固めを行ってきました。今後、地域貢献を進めていくための方針をさらに明確にして、実際の成果を出していく時期に来ています。そのために(1)卒業生を含む看護職を対象としたリカレント教育(2)地域住民を対象とした保健医療福祉分野の学びの場の提供(3)特別講演等によるアカデミックな情報提供と研修(4)地域課題研究を4つの柱にして、活動を推進していきたいと考えています。

# 看護大　いきいきサロン

「看護大いきいきサロン」では、地域の皆様がいきいきと暮らすための秘訣を身近な健康に関するテーマで開催しております。今までには、「眼のお話」、「脳活性化のひと工夫」、「人には話しにくいおしっこの話」など、多彩な講師をお迎えしております。

このサロンは、地域の皆様にとって、

- 健康に関心を持つ人たちが気軽に集う場
- それぞれの暮らしをいきいきと過ごす知恵を共有する場
- 市民と医療・看護職者との交流の場

となることを願い、9月より毎月開催しております。

今後のプログラムが続々と計画されてきています。
現在決まっているテーマは「患者として医療者とどう向き合うか」、「在宅で死をむかえるための医療」です。

毎回開始時間は若干異なりますが、
以下の内容で行っております。

●プログラム：
開催日程は下記の<申込・問い合わせ先>までご連絡ください。
また大学ホームページでもご案内しています。

18:00前後～　講演会（30分程度）
　　交流会（30分程度）

●場　所：新潟県立看護大学　第2ホール
●参加費：無　　料

どなたでもご参加いただけますので、
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

●主　催：新潟県立看護大学　看護研究交流センター 地域貢献部会
●申し込み・問い合わせ先
**新潟県立看護大学　教務学生課**（担当:細谷）
**TEL　025-526-2811**
**FAX　025-526-2815**

※準備の都合上、できるだけ事前に申し込みをお願いします。
当日参加もお待ちしております。

**交通のごあんない**

●高田駅前案内所または本町4丁目から
「中央病院行きバス」または「上牧・宇津の俣行きバス」に乗車（所要時間13分）、看護大学下車

## 編集後記

日に日に寒さが増し、いよいよ本格的な寒気が到来いたしました。12月号は看護学実習やふれあい実習等で活き活きと学んでいる学生の様子や、桜蓮祭を仲間と共に盛り上げていこうとする学生の姿をお知らせしました。また、学長や新三役の大学運営についての抱負や学生へのメッセージをお伝えすることができました。広報委員会のメンバーも新しくなり、引き続き充実した内容の「ポルティコの広場」をお届けしたいと考えています。

広報委員：杉田 収、　藤川あや、　角山裕美子

新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing
〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地
Tel 025-526-2811　Fax 025-526-2815
E-mail soumu@niigata-cn.ac.jp

http://www.niigata-cn.ac.jp
発行日：2009年12月20日

PRINTED WITH SOY INK
R70 古紙配合率70%、白色度70%の再生紙を使用しています。